



◆平松礼二館 開館記念—自選作品展—

12月26日(火)まで

平松礼二画伯が「平松礼二館」オープンに合わせて厳選した作品28点を展示しています。



「梅花図(白)」

◆常設館

湯河原を愛した画家たち

12月26日(火)まで

竹内栖鳳「喜雀」(六曲一双屏風)をはじめ、安井曾太郎の「赤き橋の見える風景」、伊東深水「水鏡」、川端玉章「見附の松」など21点を展示しています。

アートトーク

美術館の喫茶室で、美術の話を聞きませんか。

【日時】12月12日(火)14:00~

【場所】町立湯河原美術館 喫茶室

【テーマ】平松礼二画伯と湯河原

【講師】当館学芸員

【参加料】200円(飲み物付)

*第1回アートトークを記念して、先着30名の参加者の方に平松礼二画伯のカレンダーを、抽選で10名の方にサイン入り書籍を差し上げます。

ギャラリートーク

当館学芸員が展示作品の解説をします。

【日時】12月17日(日)10:30~

【場所】町立湯河原美術館 展示室

【参加料】観覧料のみ

【開館時間】9:00~16:30(入館は16:00まで)
 【休館日】水曜日・12月28日(木)~31日(日) 1月は1日から開館します。
 【観覧料】町民の方 大人400円、小・中学生200円(町民証をお持ちください。)
 毎月第3日曜日の「家庭の日」は、町民の方は観覧無料です。(町民証をお持ちください。)

平松礼二館 次回展覧会の予告「新春・花の饗宴」

平成19年1月1日(月)~3月26日(月)

平松画伯が描く華麗な花々を一堂に飾ります。

一喜一憂

小春日和。晩秋から冬にかけての穏やかで暖かい日。十一月から十二月の初め、今頃です。野山が赤や黄色に彩られ、秋から冬へ移り変わる今年最後の月、慌しい師走を迎えました。

すがることができない頼りなさが、政治や行政にあるのか、今年もやりきれない事件や不祥事がありました。裏金や談合に加わった県幹部、相次いで辞任した改革推進知事。市職員は飲酒運転で奪われてしまった幼い三兄弟の命。管理の不手際で起きた市営プール事故。今どき信じられない鬼畜のような両親の手で、標準体重の半分くらい、七キロにやせ細って餓死させられた拓夢ちゃん。同じような姉を預かっていながら、こんな無残を見逃した機能しない児童相談所。助けを求めた声も出せない幼い子どもたちが命を捨て、そんな異常な社会こそ一日も早く捨てなければなりません。

いじめが絶えない教育現場、いじめる側に立って自殺に追いやってしまった教師。いじめの問題は、「明日は我が身」と認識し、学校も家庭も日頃から子どもたちと話し合っておく必要があります。子どもから大人まで先進国の中でも自殺の多い国であり、うつ病に悩む人も急増しています。病める社会に生きる私たちの心も知らず知らず病みつづめるのでしょうか。

明るい話題は、悠仁様のご誕生と映画俳優初の文化功労者となった高倉健。沖縄県石垣島を訪れた折、お年寄りが運動場でどちらが長い縄をよじるかの競争で、大声で応援する子どもたちの姿に感銘し、学校に天体望遠鏡を寄贈しましたが、夜空も心も美しいあの鳥に、天体望遠鏡が必要であったのか後悔したと、後の随筆にありました。感動を形で表す心も、その行為を省みる心も、今、私たちが忘れかけている大切な心なんでしょう。

バブル崩壊から十年。景気は回復したと言われてもフリーターやニートが増え、生活保護世帯が百万を超えては、実感しろという方が無理です。

美しい国づくり内閣を発足した安部総理。キヤッチフレーズは美しくても、現実の世相は暗く、経済も教育も社会福祉や安全も、美しくするために何を最優先するか、政治に問われるのは結果のみです。

財政難がピークに差し掛かった本町ですが、県西部地震や東海地震の発生に備え、計画を前倒し、湯小、吉小の耐震大改修工事、受災時の拠点となる消防庁舎に高機能指令センターを整備しました。

また、長年の懸案であった奥湯河原への遊歩道は、県の施工で今年は二十メートルですが、起点となる不動滝前から着工。これにより今後の予算は、確保したものと安堵しています。下流の西村京太郎記念館から泉大橋までは町の施工で三月には完成。将来は、千歳川から海岸線舟付まで、新崎川から幕山公園までと長期計画が進められ、歩いて楽しい、癒しとふれあいの水辺の散策路となる遠い未来に夢を馳せています。

湯高跡地の活用法、二〇一〇年を目途にした県西二市八町の合併協議、食文化創造大学院大学の創設、高齢者福祉、子育て支援、安全安心と町活性化策等、二〇〇七年が、町民の皆様と行政が心を一つにして課題に取り組む「参加と協働、そして共生」の絆で固く結ばれる年であってほしいと願っています。

「ちりぬべき 時知りてこそ 世の中の花も花なれ 人も人なれ」。

今年のNHK大河ドラマ、細川ガラシャ辞世の句がいつまでも心に響きます。
 ご愛読ありがとうございます。
 明るく幸せな年末年始をお過ごしください。

町長

米岡幸男

